

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1階ユニット)

事業所番号	2795000153		
法人名	株式会社 シンシア		
事業所名	あいおいホーム		
所在地	東大阪市大蓮北2丁目1-22		
自己評価作成日	令和元年7月3日	評価結果市町村受理日	令和元年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①医療機関との密接な連携による健康管理 ②ご家族との良好な関係維持 ③入居者様が安楽に過ごせる環境作り ④玄関扉と門扉の日中開錠。閉ざさない環境作り

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、看護師と保健師経験の長い法人代表者が9年前に設立した。周囲は住宅や工場や銀行などが立ち並び、地藏菩薩像が角目に立つ旧街道を入った静かな一角にある。開設以来町内会に加入し、敷地入口の空きスペースを提供して、地区の地車保存会と共催の盆踊りが、毎年にごやかに開催されている。また介護相談を積極的に受け入れたり、落語会を施設内で開催するなど、地域の人々との交流を図っている。代表者は、利用者の最期までを看取る対応を実現するため、協力医療機関との密な連携と充実した看護介護体制を構築し、看取りの実績を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「まごころ、ふれあい、たすけあい」の理念を掲げ 玄関に掲示し新人教育の際に周知徹底している。また、毎日申し送り時に職員一同昭和している。	玄関には、法人の理念「まごころ、ふれあい、たすけあい」と信条が掲げられている。リビング入口の壁面には、職員が毎月交代で考えた行動指針「気配りを大切に」「笑顔あふれるホーム」などが掲げられており、職員は日々再確認し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護予防教室や事業所イベント等をおこない 地域の方をお招きし、入居者と交流していただいている。	事業所は、開設以来町内会に加入し、地域との良好な関係を保っている。毎年夏の地区の盆踊りには、事業所の入り口の広い駐車スペースを提供している。また、事業所1階のリビングで落語会の開催を計画し、地域の人々に案内している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の門前に無料介護相談承る旨を掲示し介護相談があれば所内相談や訪問相談、電話相談に応じてる。また施設見学を随時受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域包括センター、元市会議員スタッフで会議を構成し2ヶ月毎に実施。 家族会を併設し、ご家族様の参加を促している。	会議は、地域の代表者、地域包括支援センター職員、家族代表、利用者代表と管理者職員が参加して、偶数月に開催している。会議では、運営状況の報告と意見交換を行い、内容を記録している。しかし、欠席した家族への報告書としては、十分な会議録とは言えない。	会議に欠席した家族にも、次回の会議案内に会議録を同封して、施設の状況や行事予定などを知らせ、参加を促すことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問・報告などその都度電話等でおこなっている。	公的扶助受給の利用者の医療面など様々な対応については、市の福祉担当職員と常に相談している。管理者は、市の地域密着型サービス協議会のグループホーム部会に参加して情報交換している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を要綱に基づき スタッフ間で徹底し見守りに主観を置き実行している。	管理者は、介護現場で日頃から身体拘束について職員に指導している。転倒のリスクが高くなってきた利用者には、ベッドではなくマットだけを敷いて対応し、感知センサーは使用していない。また玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の取り組みを要綱に基づき、スタッフ間で徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を活用するよう心がけており、現に制度利用者1名おられ、スタッフ間で知識の共有化を図っている。成年後見人が付いておられる入居者は1名。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に基づき本人及び家族に説明を行っており、各2部作成し双方が保有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部相談機関及びその連絡先を列記し、説明している。また意見箱を玄関に設置している。意見交換は随時おこなっている。	管理者は、運営推進会議に出席する家族からは、会議後に意見や要望を聞きだしている。その他の家族からは、来所時に利用者の様子を伝えながら意見や要望を聞いている。玄関には意見箱が設置してある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフリーダーを通じてスタッフの意見を運営に反映させている。また、リーダー会議やら各ユニット会議、ケア企画会議を開催し、スタッフが会議に参加する体制を作っている。	管理者は、日頃から職員と話して希望や意見を聞いている。ユニット会議やケア企画会議でも、職員の提案などを聞いている。しかし、会議は毎月開催されていない。	職員会議は毎月定期的に関き、管理者が一方向的に話すのではなく、双方向的な話し合いを行って、運営に活かすことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフリーダーを通じてスタッフの意見を反映させている。またリーダー会議を開催している。 年単位で昇格・昇給の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一同にリーダーの役割機会を設けている。また資格取得支援体制を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型サービス協議会に参加し、スタッフに順番で研修参加の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居に際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思、要望などの確認をしている。本人様の状況によっては何度も足を運び、信頼作りに努めている。入居の意思、ご家族様からの要望などの確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思、ご家族様からの要望などの確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を必ずお勧めし介護相談を行い、軽度の場合は他サービスを、重度の場合は病院受診をご紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等の立場で話し合いを持つことを常態としている。過剰にお客様の扱いをしていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事の大小に関わらず、ご家族と密に連絡を取るよ心掛けている。また、本人様と過ごす時間を多く持っていただけるよう促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に開かれたホームをコンセプトに、知人や家族の訪問や外出支援に力を注いでいる。また日中は玄関を開錠し、開門している。	利用者は地元の人が多く、玄関は出入り自由なので、入居当時は知人訪問が多いが、年数が経つごとに訪問者の数は減っている。馴染みの商店への買い物に行く人もいない。現在では、利用者全員の理美容も職員が定期的に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良し悪しを考慮したテーブルの着席位置や ソファの着席位置など環境整備につとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も電話相談等に応じるようつとめている。またご退去後に入院された方を見舞うこともある。ホームイベントへお誘いをすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む暮らしぶりには出来るだけ沿うよう 努めている。	入居前には自宅や病院を訪ねて、これまでの利用者の暮らしぶりや身体の状態、本人、家族の希望や意向をよく聞いている。入居後は、利用者に日常的に声をかけて希望などを聞き、できりだけ実現するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居に際して、できる限り居宅訪問を行い、 家具の配置などに配慮し以前の環境に近い環境整備に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアに際して担当制を実施し、各個人の状態把握を細やかに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの密な状況報告を元に、ご本人、ご家族のご希望に沿うケアプラン作成を心がけている。ケース会議やユニット会議はスタッフ全員参加を促し、でた意見等をケアプラン作成に反映させている。	計画作成担当者は、毎日の排泄などの介護記録で、利用者の日頃の状態を把握し、3か月ごとのモニタリングと看護職員の意見を参考にして、ケア計画会議で担当職員と話し合い、家族の希望を聞きながら、6か月をめぐりに介護計画を見直している。急変時はその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は日勤帯、夜勤帯を色分け別記しきめ細かい内容記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症ケアは個人差が大きいことを勘案し、画一的ではないケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に豊富に存在する公園を散歩に活用し、季節感を味わっていただくよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は近隣病院に協力医療機関を依頼している。近隣病院に月2回の訪問診療を依頼し、行っている。毎週訪問歯科診療を行っている。	利用者は、基本的には協力医療機関である近隣病院をかかりつけ医として、月に2回の訪問診療を受けているが、家族の希望で、入居前に受診していた医療機関をかかりつけ医にして、訪問診療を受けている人もいる。歯科については毎週訪問歯科が訪問し、利用者の希望により口腔ケアを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師とは密に連携をとっており、必要に応じた処置を速やかに受けていただけるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の文章による情報提供への協力を努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の要綱に基づき、入居時より看取りが可能な施設である旨を説明し、必要に際しては主治医からの説明を実施していただいている。	入居時には、重度化や看取り介護対応が可能な体制であることを家族に伝えている。本人が重度化した時に、協力病院の医師が家族に病状を説明して、事業所は「重度化対応・看取り介護指針」を示して、看取り介護の同意を得ている。代表者は看護師で計画作成担当者も兼務しており、非常勤の看護職員も3名配置して看取りの体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット、事故報告書の報告及び記録の提出の徹底を図っている。また日頃から報告連絡 相談体制を一貫し、急変時の迅速対応を心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ、利用者、家族の参加のもと、消防訓練を6ヶ月ごとに行っている。	職員は毎年2回、消防訓練を利用者と共に実施して、結果を消防署に届けている。最近の訓練には、敷地内に隣接する施設職員も参加している。備蓄品として水や食料品や介護用品などを備えている。緊急連絡網も整備している。	消防訓練の内1回は、夜間を想定した訓練を実施することと、近隣住民に避難時の見守の協力を依頼することを望む。また火災以外の災害避難訓練と災害対策マニュアルが確認できなかったため、風水害や地震を想定した避難訓練も実施することを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への言葉かけについては、スタッフマニュアルで謳っており、スタッフ間で注意し合う環境づくりに努めている。	管理者は、職員の対応に問題があった時は、その都度現場で指導している。特に排泄時の誘導や入浴時の対応には注意している。職員間では、不適切な言動があった時には互いに注意し合っている。	感染症マニュアルは確認できたが、他の介護マニュアルなどを含むスタッフマニュアルは確認できなかった。プライバシー確保や接遇に関するマニュアルも含めて、職員が直ぐに見ることができるように分かりやすい場所にマニュアルを保管することを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿う ケアに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿う ケアに努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩等の外出に際しては服装の相談に応じたり、女性は化粧、男性は髭剃りを援助し、定期的に理美容を受けていただく等、その人らしい 身だしなみに配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操に楽しく参加していただき、 個人の力量に応じてテーブルを拭いたり、食器の片づけを行っていただく。また、カレーライスの盛り付けやチラシ作など簡単な調理に参加されている。	重度化した利用者が増えているので、食事は給食業者の惣菜を電子レンジで温め、施設でご飯を炊いて、利用者の状態によりペースト状や刻み食にして提供している。職員は、食事介助や見守りのため一緒には食事ができない状況である。時には庭で採れたさくらんぼを食べることもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人記録に摂取水分量、回数、食事量を記録し食事の好みや嗜好に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを、各個人の口腔の状態に応じて実施している。また毎週訪問歯科診療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間と日中のおむつやパッド、リハビリパンツの使い分けを実施、トイレ介助を優先する等、機能保持に努めている。	2階の利用者は、昼間はリハビリパンツを着用し、自身でトイレに行くか、職員が排泄パターンを把握してトイレ誘導している。夜間は4時間おきに定時にトイレ誘導して支援している。1階の利用者は重度の状態の人が多く、紙おむつを装着して定時に排せつ介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に各個人の排泄記録を詳細に書き込み、腹部マッサージや適正な水分補給と水分摂取量の管理等を施工している。徹底して便秘の管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定をカレンダー化し6月～10月は週3回、11月～5月は週2回入浴していただく。シャワー浴の方は足浴を行っている。	利用者は、6月～10月は週3回 11月～5月は週2回のシャワー浴か足浴をしている。冬場は湯船に湯を貯めて浴室を温めているが、入浴は行っていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に通じた室温温度管理に注意し、ベッドの環境整備、適切な体位交換、良肢位保持等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録にはお薬説明書を添付し、スタッフ間で共有化している。介護記録に服薬者印を残すことと、服薬時の対象者名と日付の音読等を実施し、投薬ミスのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵や塗り絵、習字、折り紙、散歩、日光浴 ラジオ体操など個人の能力、生活歴、性格に応じた対応に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や敷地内での日光浴を行っている。他外出、外泊は積極的にご家族が行えるよう 環境整備している。	利用者は毎年、近隣の公園に花見に出かけているが、日常的な散歩や外出はしていない。日頃は、敷地内の庭の花壇で咲いている花を觀賞したりして日光浴している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームは生活保護率が5割強であり、所持金を持たない方もあり、不公平でもあり、また、物盗られ妄想を喚起する可能性や、紛失によるトラブルのもとになるので、基本的に所持金はお断りしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援は行っている。ご希望により電話の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、レクリエーションで作した季節の貼り絵で季節感を演出したり、毎日の清掃管理に努めるなど環境整備には配慮している。	1階の玄関を入るとリビング兼食堂があり、真ん中に食卓が並べられて、全体は広々とゆったりしている。正面には大きなガラス戸があり、部屋は明るく、庭の芙蓉の花やさくらんぼの木などが眺められ、季節を感じるができる。また壁面には職員手作りの花などの折り紙が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファの配置や着席位置を工夫するなど環境作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、親しみのある家具の持ち込みやTVを置くなど希望に沿うレイアウトを実施している。	居室には、ベッド、クローゼット、カーテン、エアコンが備えられ、利用者は、これまで使ってきた馴染みのタンス、テレビ、仏壇などを持ち込んで、居心地良く暮らせる工夫をしている。居室の入り口には、色紙で可愛く縁どりした大きな表札が掲げられ、名前には仮名が振ってある。留学生職員のための工夫だが、利用者本人にとっても自分の居室がわかりやすい工夫である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段室を施錠し、エレベーターは自由に使用していただく等安全配慮しながら、能力に応じた自由度を確保している。		